

2025 年度事業報告

(2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日)

概 況

高病原性鳥インフルエンザは今年度においても 10 月 22 日に国内で最初の発生事例が採卵鶏で確認されて以来、23 事例（うち採卵鶏 10 道府県 17 事例）が発生し、約 552 万羽（うち採卵鶏約 508 万羽）が殺処分の対象となった。このような状況を受け 2025 年度の鶏卵価格が高くなり、かつ年間を通じて大きな変動が見られなかった。このような状況下で本協会は、鶏卵のさらなる安全・安心、良質化とその加工品の安定供給、需要拡大のために知識啓発並びに情報発信事業を行っている。

事業報告の明細

1. HACCP 関連事業の推進

- (1) 鶏卵の製造工程管理による安全・安心を確保するため、2013 年に GP センター HACCP 認証団体を立ち上げ、毎年度認証施設の拡充を図っている。
2025 年度末で新規認証施設も含め 44 施設が認証されている。
- (2) 食品衛生法改正により、HACCP に沿った衛生管理が制度化されたため、HACCP 導入の手引書を作成し、鶏卵の安全・安心を図るよう周知を図った。これにより、厚生労働省「卵選別包装施設の衛生管理要領」は 2021 年 6 月 1 日に削除された。さらに、本年は機能性表示食品の食中毒事件の影響で食品衛生法施行規則が改正されたことから、それに準拠するため一部内容の見直しを行い 2025 年 7 月 8 日に第 6 版を発行した。

2. ヤングミーティングによる知識啓発情報発信事業

(1) タマリエ検定の充実及び普及

1) 三ツ星タマリエ検定

鶏卵に関する正しい知識を会得してもらい、タマゴの伝道師として安全で高栄養価である鶏卵の素晴らしさを国民に普及するとともに、食生活には欠かせない鶏卵の消費促進に資する広報の役割を担ってもらうことを期待して始めた検定も 14 年目を迎えた。

農林水産省後援の下、東京会場・大阪会場・キューピー会場・千葉会場・岡山会場・札幌会場にて開催した。2025 年度の認定合格者は 309 名、総認定合格者は 3,356 名となった。

2) 五ツ星タマリエ検定

たまごに関する知識を正しく理解したプロ中のプロに与えられるタマゴのソムリエ資格最高位の、五ツ星タマリエ検定を開催した（第 6 回）。論文・記述試験・プレゼンテーション試験に合格しなければならず、狭き門であり 2024 年度は合格者がいなかった。その対応策として論文のテーマを広げることとした。その結果、応募者の人数が増えたことから 5 名の合格者をだすことができた。総認定者数 15 名。

(2) たまごニコニコ大作戦の拡大

1) これからの食を担う高校生を中心とした「たまごニコニコ料理甲子園」をいいたまごの日である 11 月 5 日 日本食糧学院東京栄養食糧専門学校に於いて開催した。たまごニコニコ料理甲子園も 11 回目を迎え、料理甲子園の趣旨が各校に理解され、教育の一環としての応募が増え、1,194 作品の応募があった。その結果、九州・沖縄エリア代表久留米筑水高等学校の作品がグランプリに輝いた。この結果はテレビや地域 FM などでも取り上げられた。

3. 畜産物輸出協議会・鶏卵輸出部会への参画

日本産鶏卵は安全・安心でおいしいことから輸出量は年々増加していたが、2023 年は国内の鳥インフルエンザの影響で一気に減少した。その後は回復傾向にあるが、2022 年の数量までには回復していない。2025 年の実績は輸出数量：約 21,318 トン（前年累計 約 21,866 トン、前年同期対比 ▲2.5%）輸出金額：79 億円（前年累計 約 69 億円、前年同期対比 +15.3%）となっている。国内の供給も不足気味の環境の中、輸出力強化の取り組みとして香港、シンガポール、台湾などで行った活動に参画した。

4. 見学研修会の実施

2025 年 9 月 2 日に株式会社ホクリヨウ札幌農場の GP センター見学と講習会を開催し知見を高めた。

5. 同業他団体との消費拡大、安全・安心への取り組み

1) たまご知識普及会議（略称 たま会）への参画

同業他団体（4 団体）と協力し、消費者へ鶏卵の正しい知識普及を図った。ポータルサイトの改善と業界へ周知、連携を高める活動を行った。また、各地の食育フェアへの出店を実施し、知識普及に努めた。今後の発展のために来日外国人への好きな日本の卵料理の調査を行った。

2) 中央鶏卵規格取引協議会へ参画し鶏卵規格取引研修会等に協力した。

3) 「いいたまごの日」への取り組みとして、先に挙げた卵料理甲子園のほか、高校生向けに、料理研究家きじまりゅうた氏によるたまごを使った料理の実演・講演を行った。

6. 本協会の活動及び委員会の活動

(1) 定時総会

2025 年 5 月 29 日（木） 東京都千代田区飯田橋 3-10-8 ホテルメトロポリタンエドモントにて開催した。

次の議案が満場一致で承認された。

- | | |
|---------|---------------------|
| 第 1 号議案 | 2024 年度決算書類承認の件 |
| 第 2 号議案 | 任期満了に伴う理事改選の件 |
| 第 3 号議案 | 任期満了に伴う監事改選の件 |
| 第 4 号議案 | 2025 年度役員報酬承認の件 |
| 第 5 号議案 | 2025 年度借入金最高限度額承認の件 |
| 第 6 号議案 | 2025 年度会費徴収方法承認の件 |

(2) 理事会

協会の業務執行決定のため、次により理事会を開催した。主な議案は次の通り。

第1回 2025年4月23日(水) 馬事畜産会館

- 1) 会長幹事2名、監事3名以内選考の件
- 2) 理事、監事候補者承認の件
- 3) 2025年度定時総会議案の件
 - ① 事業報告及び事業報告明細書
 - ② 貸借対照表および正味財産増減計算書
 - ③ 貸借対照表及び正味財産増減計算書付属明細書
- 4) 2025年度定時総会招集の件
- 5) 会員入会の件

議案通り承認された。

第2回 2025年5月29日(水) ホテルメトロポリタンエドモント 3F ふじなみ

- 1) 会長1名選出の件
- 2) 副会長3名以内選出の件
- 3) 専務理事1名選出の件
- 4) 副会長席次の件
- 5) 新規入会承認の件

議案通り承認された。

第3回 2025年6月12日(木) 馬事畜産会館 第3会議室
決議事項なし。

第4回 2025年10月8日(水) 馬事畜産会館 第3会議室

- 1) 会員入会の件

議案通り承認された。

第5回 2025年12月3日(水) アットビジネスセンター東京駅八重洲通
601号室

- 1) 2026事業計画(案)承認の件
- 2) 新規入会承認の件

議案通り承認された。

第6回 2025年1月9日(水) 電磁的開催

- 1) 会員入会の件

議案通り承認された。

第7回 2026年3月12日(水) 馬事畜産会館 第3会議室

- 1) 2026年度事業計画及び予算案の件
- 2) 2026年度定時総会開催の件
- 3) 会員入会の件

議案通り承認された。

(3) 三役会

理事会上程議案等について審議を行った。

第1回 2025年4月23日馬事畜産会館に於いて

第2回 2025年6月12日馬事畜産会館に於いて

第3回 2025年10月8日馬事畜産会館に於いて

第4回 2025年12月3日アットセンター東京駅八重洲通に於いて

第5回 2026年3月12日 馬事畜産会館に於いて

(4) G PセンターH A C C P認証委員会

G PセンターH A C C P施設認証の更新審査が14社あり、その結果について協議を行い、承認を得た。

(5) ヤングミーティングの活動

チームタマリエ会議 主に馬事畜産会館及びミーティングスペース@八丁堀に於いて、下記事項等の協議を行った。

- たまごニコニコ料理甲子園作品募集・準備
- 三ツ星タマリエ検定
- 五ツ星タマリエ検定
- 中核人材育成研修会

第1回 4月22日

第2回 5月13日

第3回 6月11日

第4回 7月8日

第5回 8月19日

第6回 9月5日

第7回 10月9日

第8回 11月4日

第9回 12月2日

第10回 2月10日

第11回 3月10日

(6) 会員に関する事項

2025年3月31日現在 会員数 154社（賛助会員4社含む）

2025年に加入した会員

ユアサ・トコエッグ株式会社

株式会社 内田洋行

株式会社 カカクドットコム

株式会社 日本畜産振興会

有限会社 高島産業

株式会社 ワイズ

有限会社 磯ヶ谷鶏園（2026年度より）

決議事項

第1号議案

2026年度決算書類承認の件

貸借対照表・財務諸表に対する注記・正味財産増減計算書及び監査報告書

第2号議案

2026年度役員報酬の件

常勤理事報酬は、400 万円を限度と定め、12 ヶ月分割支給とする。

第3号議案

2026 年度借入金最高限度額決定の件

本年度の借入金最高限度額を1千万円とする。

第4号議案

2026 年度会費徴収方法の件

会費の徴収は年1回とし7月末日までに1ヵ年分を徴収するものとする。